

おお大勝利

平成 29 年度山東サッカー部報第 14 号 (10 月 13 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

選手権初戦はPK合戦の末の辛勝

10 月 8 日 (日) 選手権 2 回戦が行われ、山東は初戦南陽高校を下した米沢興譲館と対戦。興譲館とは前の週に坊平の進学校大会で対戦しているが、そのときとはお互いに戦力・モチベーションが違う。中盤に安定したプレーの光るボランチがいて、うらやましく感じられる。現在の山東、決定的なプレーをするかしないかに関わらず、ミスが少なくボールを奪われない、必ず次に繋げてくれる選手が不在¹。だから、誰がボールを持っていても安心できない (常にハラハラしてしまう)。それは FP だけでなく、GK のホタテやカイチも、超簡単なボールでも捕球すると観客席から歓声が沸く (ということは簡単なボールでも保護者の方がハラハラして観ているということ)。

場所はアウェーの米沢興譲館 G (クレー)。山東に公式戦のできるグラウンドがあれば、シード校ゆえに移動せずともすむんですけど。米沢出身で米沢から (隠れて) 通っている **2 年 GK カイチ** は、地元ということで、学校出発のバスに乗らず直接会場入り。出発する前、マネージャーが「カイチのこと知ってますよね？」と聞くので、「知ってるよ、(このバスに乗らず) 直接行くんだろ？」と返すと、「違います、39 度の熱が出て休むとのことです」と来たもんだ。2 年生の証言によると、**女の子と深夜まで Line をして体調を崩した** (はず) とのこと。**自己管理ができないのも実力のうち** ですね。話ならず。とすると、ホタテが怪我をした場合、(ホタテ、カイチも高校から GK を始めた初級者ですが) **GK 始めて数ヶ月の 1 年イグラ** が出ることになる。しかし、そのイグラ、一応 21 番の番号で登録してはいるものの、21 番の GK のユニフォームはない²。ということで、到着後、焦って「付け番」を準備。「**保護者会の女王**」であらせられる **2 年ヤマモトのお母様** が布とペンを買ってきてくださり、何とか間に合わせる。**ヤマモトさん、ありがとうございました。**

¹ 逆に、山東は決定的なプレー (ゴールに直結するプレー) のできる選手/決定的なプレーを目指す選手は多いです。ただ、そういったプレーは当たるも八卦当たらぬも八卦という感じで、プレー成功率は低くなります。監督としては、FW やアウトサイド (といった一か八かの突破を目論む選手) のポジションにそういう選手がいてもいいですが、ボランチや DF にはボールを前に運べなくてもプレーの安定している選手が欲しい。現在の山東は、FW やアウトサイドの選手のようなタイプばかりで、ミスが少なくボールを奪われずプレー成功率の高い選手がいません。

² 選手が常時 25 人いるチームなら、ちゃんと 25 着ユニフォームをそろえ、その中に 3 人目の GK も組み込むのでしようが (山形の選手権県予選は 25 名登録で当日のエントリーがその中から 20 名)、山東、現在選手 21 名しかおらず、例年そんな感じなので、25 番までユニフォームを作っておりません。

会場には、**ホーム興譲館よりも多い保護者の皆様**が来てくださっている。**河合塾1年のOBユート**（山東第67回卒）も、もはや当たり前のように、いる。ユートのご両親などの保護者 OBOG もいらっしやる。応援体制は万全です。**清野総監督と後藤報道局長**も、いつも通りいらっしやる。

試合が開始されると、お互いにセーフティー・ファーストな試合運び。まずは陣取り合戦。どっちつかずの序盤ではありますが、何とはなしに山東陣地で試合が運ばれることが多い（ということは、押され気味ということ）。前半、CK・FK から危険なシーンを作られるも、相手の決定力不足に助けられ、無失点。山東も**2年キクチャン**の個の突破からポストに当てるシーンを作り出すも（そして、**1年アキシン**が跳ね返ったボールをボレーで叩き込めば無人のゴールのネットを揺らすシーンを作り出せたはずも）、逸機。前半量チームスコアレス。山東にもチャンスはあったし、分厚く攻めた時間もあったが、決定機は興譲館の方が多かった。そうそう、思い出しましたが、**トップ (CF) で先発した新「山辺の星」1年ダイキ**³がヘディング時に相手の頭と目の上を激突させ、出血。前半4分で退く（はやっ）。このプレー、ダイキはアンラッキーだったとも言えますが、私からすると正直プレーの基礎が身につけていないための怪我。（相手と競って）ヘディングするときは、体を横に（斜めにして）体の幅と腕を使って相手に入り込ませないようにしてヘディングしなければならない⁴。それは、相手にヘディングさせず、自分だけヘディングする工夫でもあるし、頭と頭がぶつかり合わないための工夫でもある。先輩でも、**スキルはベジの5分の1だが人間性ではベジの5倍の人徳のある3年ザキヤマ**など、何度も出血したことがある出血の典型。プレーの基礎を身につけないと、ダイキは（ザキヤマさんのように）繰り返し顔面を切ることになるでしょう⁵。

さて、後半、これもどっちつかずでしたが、山東が攻め込んでいるかのように見えて、興譲館の逆襲の方が決定機を作りだしている。**模擬試験を休めると思って気を抜いていたら自宅受験との指令を受け肩を落とした3年カンタ**や、**ボールよりも女の子を追う方が早い（足よりも手が早い）2年キムタク**が、ぼんやりし過ぎて相手に裏を取られること複数回。正直、「これは終わった」と観念するシーンを少なくとも2度は作られるも、興譲館の選手が非常に優しく、外してくれる。ただ、そうした中で後半中盤に1点は取られて山東苦しくなる。**怪我をしており進学校大会中も楽しくリハビリしていた2年タカヒラ**は、完治していないためできるだけ起用したくなかったが、情勢はそうも言っていないも

³ **元「山辺の星」の3年アダチ**は、無尽蔵のスタミナの持ち主で、今年の山東の駅伝大会で陸上部の長距離選手を破り、1区1位を勝ち取りましたが、ダイキはその逆で、白い筋肉の持ち主のようです（赤い筋肉の持ち主は長距離型で、白い筋肉は短距離型）。すぐスタミナが切れるし、すぐ足を痙攣させます。ちなみに、**駅伝大会の1区1位は、私が山東に赴任して何年間か連続でサッカー部が取っていたのですが、最近は取れていませんでした。ので、アダチが取ったのは久々うれしかった。**

⁴ キングカズも、かつてイタリアのジェノアに移籍したとき、初戦で、正面からヘディングして相手の頭と顔がぶつかり出血して、退場しておりました。

⁵ または、そうなるのが怖くて、近づく相手を手の平で押して、ファールばかりする選手になってしまいます。**サッカー選手たるもの、相手を押す場合、手の平ではなく、自分のバランスをとっている振りをして、肘から手の間の部分で相手を押すもの**です（そうするとファールにならない）。

のに。ということで、後半の後半、タカヒラ投入。すると、**ゴリゴリゴールに迫り、流れを変えてくれた！** 守りきる興譲館、追いつきたい山東といった状況の中、**キクチャンの突破、センターリングを、タカヒラが GK の後ろからサササッと忍び寄り前に出て、ヘディングで合わせて、同点。**ピッチ内も選手の喜びで揺れましたが、山東の保護者も大揺れ。山東最後に逆転かという雰囲気ありましたが、そのまま延長戦へ。

結局その試合、延長戦もスコアレスで、PK 合戦入り。最近 PK 合戦で勝った記憶がなく⁶、GK ホタテにも相手の PK を止めるイメージがない。清野総監督に「相手が枠を外してくれない以上、勝ちはないです」と説明。しかし・・・5人冷静に？決めた山東に対して、**興譲館の 5 人目のシュートをホタテが横っ飛びのセーフで止め、山東の劇的勝利。**いや～、こういうヒーローになれるから、GK はやるもんですね。ホタテ曰く「うれしくて3秒くらい涙が出ました」という？な発言もありましたが、とにかく**監督の予想をうれしい意味で裏切ってくれました！！** 相手の方が決定機はありました。その意味で、試合内容は反省すべき点多かったと思います。しかし、このチーム、勝利を得られないことがこれまで多く、成功体験をあまり積めていなかった。こういう勝利の喜びがあるからこそ、普段の練習にも身が入るといえるものです。**内容はともかく、ひとまず勝ってよかった。**

さて、3回戦、相手は鶴岡東です。2試合観ましたが、県総体のときよりもグレードアップしておりました。**Y2 で優勝し来年 Y1 に昇格するチームの風格**があった。こういう対戦になったから公言できますが、組み合わせが決まってから、「初戦に勝って鶴岡さんと戦うことが礼儀だな」と思っておりました。2年連続で県総体を山東に邪魔されているわけですから、「山東来い、潰してやる」と思っているだろうな～。ということで、非常に実力差のある対戦ですが、こちらは当たって砕けろ、失うものは何もない（3年カンタを失うだけの）状況です。場所は遠方となりますが、応援よろしくをお願いします。

10月14日（土）選手権県予選3回戦 VS 鶴岡東 11:00～@庄内町八幡スポーツパーク

それに勝つと

10月15日（日）選手権県予選準々決勝 11:00～@酒田市飯森山 G

Y1最終戦破れ最下位決定 進学校大会は成功

顧問今野の怠慢により、報告が遅れていましたが、①9月23日 Y1 第14節（最終節）があり、またその夜、②保護者会主催の選手権激励会がありました。翌週（9月30日～10月1日）は、③蔵王坊平（B会場は猿倉）にて進学校大会がありました。それらをまとめて報告させていただきます。

①まずは Y1 最終節山形中央 B 戦から。会場は9月23日（土）石鳥居 G（山銀 G）。この試合に勝つと、Y1 で8チーム中7位の目があり、7位だとプリンスリーグ東北に昇格するチームがあった場合残留することができる。8位と7位では降格圏内にしても大きな違いがある。一昨年の Y1 で最下位の8位フィニッシュだった山東は降格し、昨年を2

⁶ よくよく思い出せば、ユートの代の地区総体で城北相手に PK 合戦勝ちを収めていますね。

部で戦いましたが、7位の鶴東はその年日大山形がプリンスに昇格したため残留し昨年Y1を戦いました。そんなことが起こるかもしれない。ということで、降格圏内は決定していますが、その中でも順位を上げることができるかもしれない重要な一戦だった。

しかし、試合内容は・・・一言、山形中央Bが非常に上手に見えました。他のチームとの対戦では堅守速攻の山形中央Bでしたが、山東との対戦ではかなりボールを保持し、手厚く攻めていました。現在の山東って、相手の力を引き出すんですね（自虐）。

②そして、その夜、保護者の皆様が選手権激励会を開いてくださった。その前に開かれた臨時保護者会総会⁷の後、開会。最近恒例になりつつある選手入場からスタート。**会長の馬場さん**は棋士の加藤一二三（通称ひふみん）の言葉を引用しつつ、どう負けるか、どう負けを次に繋げるかお話して下さった⁸。顧問今野のスピーチの後は乾杯。**齋藤 GK コーチ**が出席されなかったのは残念でしたが、**高橋コーチ**のお披露目会ともなり、多くの保護者の方が高橋コーチとお話されたのではないのでしょうか。出し物としては1年生の漫才も悪くはなかったですが、「突然の指名」⁹に依って、**自称「本気で芸人の道も考えている」2年タカヒラ**が見せた芸に、一同大笑いいたしました。保護者の皆様、ありがとうございました。

③テスト明けすぐの9月30日（土）～10月1日（日）は恒例の進学校大会（第8回）。蔵王坊平のウッディロッジに泊まり、進学校同士切磋琢磨し、選手権・県新人の調整の場としています。たいらぐらと猿倉の天然芝ピッチを使用。ちょっと芝の状態が良くなく、前日に雨が降った影響で初日は足を滑らせる生徒が続出。**カツミ先輩が苗場遠征の最後に、スリッピーなピッチに備え「ちゃんと取り換え式のシューズを準備しなさい」と伝えていたのに、アマちゃんな選手が多すぎる**。カツミさんに代わり、怒っておきました。試合は、Y1では実力差がありすぎて新しいことを試し結果でチェックすることができなかつたそれまでと異なり、新しいシステム等を試すことができ、**選手権に向けてメチャクチャ有意義**でした。**これまでの進学校大会の中で最も収穫の多かった大会となった**と思います。やはり、拮抗した対戦じゃないと力を伸ばせないし、本当の意味で試すということもできませんね¹⁰。Bチームは、鶴岡南さんと合同チームを作り、戦いました。齋藤さんが鶴南

⁷ これまでの会計について詳しく説明し、同時に会計方法を改める決議をする機会でした。

⁸ 実は私、将棋好きでして、月刊誌「将棋世界」を定期購読しています。将棋をすることも好きですが、将棋界の事柄を知ること全般が好きです。他の本校職員はと言いますと、誠先生も定期購読しているはずですよ。

⁹ 彼なら準備していたかもしれません。いずれにせよ、芸のストックがたくさんあること自体すごい（より根本的に言えば、面白いことを探している／面白いこととして抜き出す力がすごい）。

¹⁰ ちなみに、この思いから、来年はちゃんとY2で戦いたいと思います。というのも、Y1の7位だとプリンスへの昇格決定戦の結果如何で残留の目が出てくると先に述べましたが、今年はY1で1位の羽黒と2位の米沢中央の2チームが昇格決定戦に臨みます（今年から昇格数・決定方法が変わった）。**もし山形の2チームが昇格枠を独占し2チーム上がると、山東も残留となります**。他力だし、2チーム共にというのは可能性として低いように感じられるので、残留に期待はしていませんし、そもそもY1の力のないチームがY1にいたところでお互いのためにならないと感じており、残留したいという気持ちはありません（3年生がいたチームであれば今年降格はしなかったと思うし、Y1を戦う意味があると思いますが、新チームでは厳しい）。ということで、来年はY1ではなくY2で戦う気

の GK を褒めてポロツとこぼしていました。「GK うまいと蹴ってても楽しいね、最近ない感覚だった」。**ホタテ、カイチ、イグラよ、もっと頑張り給え**。B の FP は伸び伸びプレーしていて、良い得点もありました。**進入部員の1年マスコッチ**も久しぶりのサッカーを楽しんだようでした。A は最終山南戦に勝てば優勝という状況でしたが、完敗し、**新北の初優勝**となりました。空き時間は、**志田トレーナー**のフィジカルトレーニングで有意義に使うことができました（故障者は上のジムでこれまた専門家に鍛えてもらって、無駄がなかった）。進学校の皆様、ありがとうございました。今後ともお互い頑張りましょう！